

夏に花咲くヘクソカズラ

独特のにおいが特徴



黒田有寿茂主任研究員

皆さんは夏の花といえは
何を思い浮かべるでしょう
か。今日は身近な野草「ヘ
クソカズラ」を紹介します。

私は、この紅白の鮮やかな
花が咲きだすと、梅雨が明
け、夏がやってきたなあど
感じます。

ヘクソカズラは多年生の
つる草です。林のへり、植
え込み、フェンスなどに、
からみついて生えていま

す。漢字で書くと「屁糞葛」。
す。葉をもんで、かいでみ
おなら、うんこのつる草で、
ましよう。やはりちよつと
一度聞いたら忘れることは
ありません。

その名のとおり、この植
物は独特なおいがしま
この臭気の正体はメルカ



①ヘクソカズラの花
②熟(じゅく)し始めた
果実



プタンというガスです。葉
の細胞が傷つくと、その中
にあるペドロシドという物
質が分解され、メルカプタ
ンが発生します。このペデ

ロシド、虫が嫌う成分とし
て機能します。ペドロシド
によって、ヘクソカズラは
虫に食べられたり汁を吸わ
れたりしないよう身を守っ
ています。

ただ、虫の中には、この
化学防衛を突破するものが
います。それが「ヘクソカ

ズラヒゲナガアブラムシ」
です。このアブラムシはヘ
クソカズラの汁を吸い、ペ
ドロシドを体内にため込み

ます。そのためとてもまず
く、天敵のテントウムシに
襲われずに済むようです。

植物の防衛物質を虫がと
りこみ、利用するという例
は、ほかにもあります。例
えば「ウマノスズクサ」と

「ジャコウアゲハ」。ウマ
ノスズクサにはアルカロイ
ド系の毒が含まれていま

す。ジャコウアゲハは幼虫
の時にウマノスズクサを食
べ、その成分を体内にとり
こんでいます。

ヘクソカズラの話に戻り
ましょう。その花は釣り鐘
のような形をしています。

これを早乙女のかさに見立
て「サオトメバナ」とよば

れることもありま。また、
花の内側が暗紅色に染まっ
ています。これをおきゅう
の火にたとえた「ヤイトバ
ナ」（灸花）という名前も
あります。花の先につばを
つけ、腕にはりつけ、「や
いとをすえた」と遊びま

す。秋に入ると、黄土色の実
をつけます。この実は「ス
ズメノタゴ」とよばれたり
します。タゴは「担桶」と
書いて、水肥などを入れ、
てんびん棒でかつぐおけの
こと。この名にふさわ
しく、実をつぶすと、とて
もくさいにおいがします。

果たしてどのくらいくさい
のか…ぜひお試しあれ。

果たしてどのくらいくさい
のか…ぜひお試しあれ。

ひとく
研究員
だより